

HOYOG 教区新報

浄土真宗本願寺派 兵庫教区教務所
〒650 神戸市中央区下山手通8丁目1番1号
(本願寺神戸別院内)
電話 神戸(078)341-5949(代)
【編集】教区基推委広報部

1992. 9. 60号

発行所



全員が起立して決意表明を行う

本願寺神戸別院改築・兵庫教区教化センター設立、総合復興計画に関するご消息披露が八月三十一日、本山から総長一行を迎え、百六十人が参加して別院で開催された。

式典では松村総長がご消息を拝読し、土基輪番に伝達した後、「教区内で地域の事情が違う困難なところを克服して、教化センターとしての機能を発揮する立派な施設を建てて下さい、

「仏恩報謝の懇念結集」

総合復興計画でのご消息

というご門主さまからのお願いのお手紙です。」と主旨を述べた。

続いて行われた推進の集いでは土基輪番が「基幹運動推進のセンターとしての機能を果たした別院の改築が、長年の懸案として取り組みが進められ、その努力が結果として事業推進の機運がここに到りました。ただ今頂戴したご消息のおこころを体して、名実ともに第一歩を踏み出すわけであります。この大事業に教区内皆

と、ご門主さまからのお願いのお手紙です。」と主旨を述べた。

続いて行われた推進の集いでは土基輪番が「基幹運動推進のセンターとしての機能を果たした別院の改築が、長年の懸案として取り組みが進められ、その努力が結果として事業推進の機運がここに到りました。ただ今頂戴したご消息のおこころを体して、名実ともに第一歩を踏み出すわけであります。この大事業に教区内皆

最後に教区会議員・多田実氏が「私共はご消息の主旨を体し、本願寺神戸別院改築並びに兵庫教区教化センター設立の完遂をめざし、教区内全寺院僧侶・門信徒が力を合わせてその建設推進に向けて努力いたします」と決意表明を読み上げ、神戸別院責任役員近藤常吉氏が「さしせまった問題なので教区内の皆様にもよろしくお願い申し上げます。この時期に有利な建築ができるのではないかと挨拶し閉会した。」

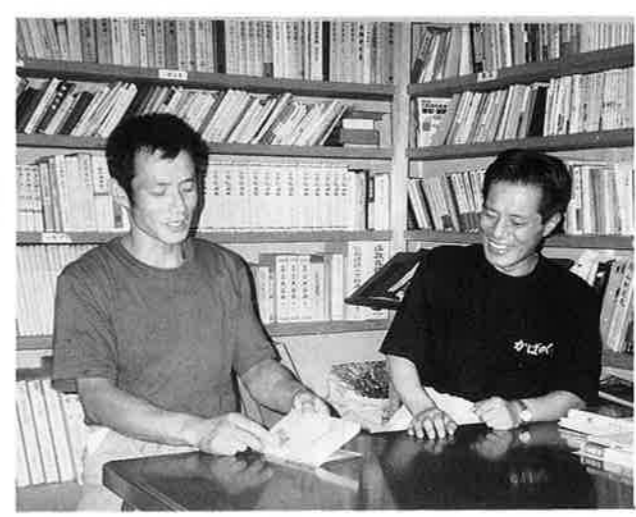


相当以前のことで、書齋が片付けていた古いアルバムが出てきた。思わず頁を開いてみると、山門建立の記念写真が目についた。しかし次の瞬間大きな衝撃を受けた。写真の八人中、十数年経過しては唯私一人であるという現実である。人生は「邂逅と別離」と云われるがまさにそのことを思わずにはおれない。今日出会う人が再び会うことのない人も知れない。人だけではない。物として今日という日そのものが生涯かけがえのない素晴らしい日なのである。◆今日生まれた赤ちゃんにも百才の老人にとっても今日という日は二度と来ない。こう気付く時、今日会う人に心を尽くして接し、今日の事に全力を尽し、今日という日を大切に過ごしたい。◆茶道の本質を説く言葉に「一期一会」というのがあるが、大変きびしい言葉である。この語の持つ意味を日常的暮らしにおきかえて過ごしたい。念仏者の生き方に相通するものがあるから。(杉本 痴覚)

教区だより

9・10月

5日(土) 総代ブロック研修(丹波) 第一土曜仏教講座 竺 文彦師	多紀組・光専寺 1時半	14日(月)~16日(水) 別院常例法座 小林浄子師 17日(木)	1時半 同兵宗連学習会
7日(月) 組長会 別院仏婦定例法座 谷川秀一師 企画推進室会議	10時半 1時半 2時	17日(木)~18日(金) 青僧会一泊研修会	島根
8日(火) 総代ブロック研修(阪神・神戸)	神戸別院	18日(金) 全戦没者追悼法要	千鳥ヶ淵墓園
9日(水) 連研のための研究会 9日(水)~11日(金) 少年教化推進員養成研修会	10時半	22日(火)~24日(木) 別院秋季彼岸会 上蘭恵水師(安芸教区)	1時半
11日(金) 近畿六教区寺族婦人研修会	本山	28日(月) 総代ブロック研修(岡山)	岡山南組・源照寺
13日(日) 門徒推進員研修会	網干組・政源寺	30日(水)~10月2日(金) 組巡教	朝来組・姫路東組
14日(月) 総代ブロック研修(東播)	高砂組・覚正寺	3日(土) 第一土曜仏教講座 小玉教雄師	1時半
		3日(土)~4日(日) 第三連区門徒推進員研修会 近畿ブロック仏青研修会	和歌山 滋賀



岡山北組宝福寺住職 正親隆哲さん

農業青年と人形劇

中国道落合インターから五分ほど南へ行くと、落合町垂水の小高い丘の上に宝福寺がある。

「村おこしのために何かやろう」と石原豊年さんはじめ町農業後継者の十人が、

に入った。私が脚本を書いた。全員で検討し、人形作り、舞台作りなど、当初は二作を完成し、メンバー入りびたりで旗揚げまでに一年かかりました。」と語る正親住職の指導で、人形劇団「か

ばのくち」が結成されたのは昨年七月。

それ以後、人形劇・影絵劇・童話などのプログラムで、幼稚園・小学校・地域の子ども会・老人ホームなど年間二十回ほどの公演をこなしている。

現在、劇団「かばのくち」の団長である石原さんが、「子どもの頃動物園で見た、何か出てきそうな、夢を与え、嫌なことを忘れさせてくれるのが、かばのくち。住職さんにカルチャーショックを受け、団員同士の繋がりと住職さんとの繋がりが、充実感で続いている。

最初はすぐにやめるつもりでしたが、やめるにやめられなくなりました。」というほど、新聞やテレビで有名に。正親住職は「住職が人形劇の指導をして珍しがられるのは驚き。厳しい練習の合間に相談を受けたり、農業の苦労を生の声で聞き、悩みを語りあう時には徹夜になることもあるが、遊び心を忘れずとしんどい。脚本の中にある真宗の味わいが繰り返して練習するうちに身についていくのではないかと。個性の強いメンバーばかりなのでチームワークがむづかしい。」と笑った。

(広報部)

敬吊

10月にビハラー研修

教区基幹運動推進委員会ビハラー推進部会(柳川真隆部会長)では、来る十月二十七日午後一時半から、第五回ビハラー研修会を別院で開催する。本年度は講師に、京都大学医学部講師の奈倉道隆師を迎え、講義とビハラー実践活動研究会員の体験発表も行われる。

参加費は千円で募集定員は三百人。尚、本年度も社推協兵庫支部、教区仏婦連盟、寺婦連盟との共催。

報恩講に「法」を

お盆号から、新しくなった「法」シリーズを、来月報恩講向けに発行します。来月号と一緒に見本を同封します。ご門徒さん向けのパンフレットとして、ご利用ください。

一部二十円で、百部以上は、無料で表紙に寺号を印刷いたします。(広報部)

「聞くところから」

暁天講座の宮里哲秀師

今年も八月一日から三日まで、恒例のモダン寺暁天講座が開催された。毎年この講座を心待ちにしている門信徒も多く、八月三日には、宮里哲秀師(神明組真宗寺)の「聞くところから」というご法話を聴聞した。

今月号では、その要旨をご紹介します。

出会うべく

今日はおあきじがある、ご法座があるということでお説教聞かせてもらおうと出て来られた。自分自身の意思を表されたのがおいでになられたという姿ですね。聞きに行こうという思いがなければ聴聞ということは成り立たないですね。ご法義というのは聞こえてくるまんまなんです。言われておりますように私自身如来に抱かれておる、この私を必ずお浄土へ迎え取っていくという願いを成し遂げてくださったのが阿弥陀という仏様であります。

その阿弥陀という仏様のおはたらきを、私たちはお念仏の中に聞かせていただくわけですが、その聞くところから私たちが身体を向けてそこへ出向かなければならないという出向の姿がありますね。お説教は難しい。お話しというのとは分り易いよう自分の中で噛みしめてみると難しいということが、よく言われます。私たち自身が出向いていくという姿が聞くという形にありますから、そこには出会いがないと言いますか、聞きにかかっておると出会いがないわけでありまして、他力という世間は聞きにかかっていかない。そのまんまなんだというところが他力という世界でありますから、なかなか聞きにかかっていくと分かったよう分かんなくなっていく。先ほどご讃題にいただきました「一切善悪の凡夫人、如来の弘誓願を聞信すれば、歩いておる中に、向こうからやって来てくださるもの

に對してまたまお出会いをする、というのがこの遇という字の心でありますね。私の思いを離れて向こうからやって来てくださったという、向こうから届いておるもの、向こうから届いていくという意味がこの聞という字の心であるんだ。そういうふうにしてみますと、はたらきというものが少し分りかけて来るんじゃないかなと思えます。

願いに生きる

やっぱり聞くということ、相手はどういう心持ちであるのか、向こう側がどうなんだというところの上に立っておるのが「聞」という心ですね。「聴」という心は私自身がそのものに対してどういう意思を示していくのかという形が出ておるのが聴という形じゃなからうかな、そういう思いがするわけです。私たちが聴聞というお言葉でもって教えに出会って行く。身を運んで行くということの大切さも思うわけでありましてけれども、一番のどのつまり、如来の弘誓願を聞信すれば」とお示しになってくださる、出会っていくその如来様のお心との出会い方というのはやっぱり向こ

をさせていただけかないと、生きてきたということの慶びといえますか、生きて行くんだという力、大事に生きようよということが見えて来ないんじゃないか。このいのちを精いっぱいあなた自身のいのちとして生きぬいてくださいよ。それが「仏言広勝解者、是人名分陀利華」。迷いのの中にのち終わっていくんだけれども、お浄土という仏様の方向を向いて生きぬかされておる、ということが見えて来ないんじゃないか。

今、バルセロナでオリンピックが開かれておりますけど、岩崎恭子ちゃんという中学二年生の女の子が金メダルを取りました。後の記者会見で「今まで生きて来た中で一番うれしかった」という言葉が出ておりました。また、うちの長男が私の誕生日に、「お父さん四十二年間よう生きて来たな」と言ってくれた。人生生きるっていうことのひとかけらを何かつかみ取ろうとしているという思いが非常にうれしかった訳でありますけれども、私たちが本当にここに生きて行かなければならぬ言葉が「生きる」ということなんですよ。

私の願いといるのは、この私の上に、この私のどんな生き方も選ばないというところに成り立っておるんだ、ということにお出会い

(文責在記者)

HOHO

◆7月24日 同兵宗連部会を別院で。同和教育センター主事・仲尾孝誠師を講師に迎え、「御同朋の社会をめざして」第五集をテキストに講演と協議。仲尾師はこれからの課題として、もつと事実を明らかにしていくこと、人権学習の徹底などの取り組みの問題や、差別温存教学の打破、解放の教学の樹立など教学の問題などを指摘◆25日 加古川組総代会総会・研修会に教務所長出席◆26日 岡山北組連研修式に教務所長出席◆27日 社会福祉推進専門委員会・社推協兵庫支部合同研修会を別院で。講師は足利孝之師(阪神東組安養寺)テーマは「いのちの尊厳と社会福祉」。浄土真宗の社会福祉のあり方と、最近よく言われる「いのちの尊厳」について考えた◆28日 全国教区会議長・所長会を本山で◆朝来組組巡教打合せに赤松相談員出向◆大阪教区三郡組寺族婦人会約二十人が別院団参◆29日 部落解放基本法制定要



楽しくおいしく、そうめん流し

求第三期第一波中央行動を東京で。同兵宗連から六人が参加◆29日 31日 第二十九回教区少年連盟サマースクールを宍粟組願願寺他で。七十二人が参加。今年のテーマは「わがまま。そのまま。ナモアマミダブツ」。自然のいのちに支えられて一粟粟郡山崎、安富両町にまたがって大自然を満喫したようです。感想文から「一日目。サマーキャンプはどんなことをするのかと思つたら、あまりおもしろくないと思つた。お経や話を聞くだけだったからだ。二日目。この日はや

岡山で都市開教推進を

もちよつとしんどかった。こういう体験はめつたにできるもんじゃなと思つた。これからの生活にこの体験を生かそうと思つた。」「(六年・村上款) 宍粟組の皆様、地域の皆様有難うございました。スタッフのみなさん、おつかれさま◆30日 組長ブロック長会を別院で。ご消息披露の日程と、組別ご消息披露巡回についての日程調整について◆第六回府県「同宗連」と「同宗連」との事務連絡会を京都・浄土宗宗務庁で。各府県「同宗連」との情報交換、「部落解放基本法」制定要求国民運動中央実行委員会会長の件などについて協議。同兵宗連から事務局長の杉本昭典師(北撰組光澤寺)と担当者出席◆31日 基推委同朋運動推進専門委員会を別院で◆8月1日 11モダン寺暁天講座を別院で。講師は本川智暁師(神戸中組西方寺) 講題は「人生は二度死ぬ」。今年も三日間楽しみます」とお同行◆第一土曜仏教講座を別院で。講師は中垣昌美師(龍谷大学教授) テーマは「福

サマースクールで体験

本願寺神戸別院復興についての消息

本願寺神戸別院は、その昔、浄土真宗に帰依する篤信者によって寺舎が築かれ、寛永十六年に第十三代良如宗主より寺号を授与された善福寺を前身としています。

その後時代を経て、明治四十一年には別格別院となり、後に本願寺管長代理を勤められた大谷尊由師を任職に迎えました。大正六年の火災によって、堂塔伽藍が焼失しましたが、同十一年には書院と庫裏が再興され、昭和五年には本堂が落成し、その斬新な建築様式から通称モダン寺として多くの人々に親しまれてきました。昭和三十五年八月には本願寺神戸別院となり、同年十月に兵庫教区教務所が併設され、兵庫教区の伝道教化の拠点として大きな役割を果たしてまいりました。しかしながら、近年施設の老朽化が著しくなり、また時代の進展とともに、現代の要請に応えることが困難となりました。それゆえ、教化活動の中心として総合的な機能をもつ施設の新たな建設が望まれていましたところ、このたび教区内の総意をえて、神戸別院整備復興総合計画が策定されました。

宗祖親鸞聖人は、阿弥陀如来の本願力によって、罪悪生死の凡夫がすくわれ、お浄土で仏になる道をお示し下さり、中興蓮如上人は、一人でも多くの方にその道を伝えるため、各地を巡教されました。以来今日まで多くの方々が南無阿弥陀仏の尊さを身をもって示され、お浄土への道を歩まれました。

今日、近代文明の中で、私たちが、科学技術の進歩と経済の発展に心を奪われている間に、さまざまなひずみが生じています。いかに生きるべきかを考える時、私たち一人ひとり南無阿弥陀仏の大切さを心に深く受けとめなければなりません。

神戸の地は、はるか遠い昔から、港を中心に交易の拠点として栄えてきましたが、幕末に外国への門戸が開かれてからは、国際的な交流も盛んになり、今日、経済だけでなく、文化面でも、活発な活動が行われています。この地に、多角的な機能をもつ教化の中心として、別院が整備復興されますことは、まことに時宜にかなったこととあります。

このたびの大事業を進めるうえには、幾多の困難が予想されますが、兵庫教区全域の寺院、僧侶、門信徒の方々には、阿弥陀如来のご本願を憶い、親鸞聖人の「世のなか安穩なれ、仏法ひろまれ」とのご遺訓を体し、蓮如上人の「一人なりとも、人の信をとるが、一宗の繁昌に候ふ」との思召しにそい、仏恩報謝の懇念を結集して、大業を完遂されますよう、心から期待するものがあります。

平成四年八月三十一日

龍谷門主 釈 即 如

本願寺神戸別院崇敬区域の方々へ

組別ご消息披露 巡回予定

9月10日	阪神南組
9月19日	神戸東組
10月21日	阪神北組
10月5日	神戸西組
8日	神戸湊組
9日	多紀組
20日	氷上西組
21日	氷上東組
22日	但馬ブロック
朝来・養父・出石・城崎の各組	
24日	神明組
27日	神戸中組
31日	北摂組
11月2日	新宮組
9日	赤穂南組
9日	赤穂北組
11日	東播ブロック
播磨東・播磨中・多可	
加古川・高砂の各組	
14日	淡路組
18日	姫路ブロック
神崎・神姫・姫路東	
姫路南・姫路中・姫路西	
の各組	
19日	六粟組
20日	揖龍東組
21日	岡山南組
21日	岡山北組
21日	佐用組
30日	網干組
4日	阪神西組
7日	阪神東組

七月にご門主ご認許

本願寺神戸別院改築 兵庫教区教化センター設立 総合計画

本願寺神戸別院改築・兵庫教区教化センター設立総合計画について、七月十三日ご認許となり、八月三十一日には別院でのご消息披露が行われた。前回五十七号以後の経過について報告します。

経過

建設・推進委員会建築部会
建築設計内容及び図面に

ついて、設計図面検討案を基に協議。(五月七日)
建設・推進委員会広報部会、財務部会
広報パンフレット、ポスターの内容・体裁、趣意書の文案などについて協議。財務部会は懇志依頼額・勸励要項案について。(五月十一日)
別院門信徒の集い
別院門信徒の方々に改築計画について理解を求める
建設・推進委員会総務部会
各部会での協議内容について整理。建築計画の概要・広報パンフレット・勸励要項案などと、委員会の運営について協議。(五月十八日)
建設・推進委員会常任委員

会、建設・推進委員会
午前中常任委員会開催、午後、建設・推進委員会で建築設計図面・広報パンフレットなどについて協議し承認された。懇志依頼方法などの勸励要項案については常任委員会に付託された。
ご認許申請
(五月二十二日)
別院責役総代会
平成三年度一般会計並びに、當積立金・復興積立金など特別会計及び、財産目録承認と、別院建築設計修正概要など別院改築総合計画について協議。
(六月十一日)

(六月十六日)
建設・推進委員会三役会
募財依頼方法などについて具体的に問題点を整理しながら、今後の取り組み方について三役の意思統一を計る。ご消息披露についても協議された。
(六月十九日)
建設・推進委員会総務部会
広報に関してポスター・パンフレットの作成部数など、財務に関して勸励要項案について検討。ご消息披露についても日程などを協議。
(六月二十六日)
組長・副組長・組相談員・教区基推委員合同協議会
出席者から募財方法を中心に意見と質問が出された。
(七月一日)

志については四百年法要記念事業依頼額×〇・七二×地域格差で目標額算定し、お願いする。
ご消息披露の日程について平成四年八月下旬〜九月上旬の間で調整する。
ご消息披露の日程について、一カ寺一基以上申し込みをいただくようお願いする。
懇志のお扱い品については事務局において選定。
以上の決定事項については七月二十二日の組長会に諮る。
(七月十五日)
組長会
募財依頼組別並びに各寺院の金額を提示し、勸励要項を配布。(七月二十二日)
建設・推進委員会三役会
ご消息披露の日程並びに組別ご消息披露巡回について日程などの調整と、委員会としての意思統一を計る。
(八月十九日)
建設・推進委員会総務部会
組別ご消息披露巡回について出向者の日程調整と意思統一を計る。
(八月三十一日)
本願寺神戸別院改築・兵庫教区教化センター設立総合計画に関するご消息披露
(八月三十一日)

懇志進納に対するお扱い一覧表

	永代経扱い					物品扱い		
	開闢法要	院号	感謝状	式章	案内	記念品	式章	感謝状
1,000万円以上	別修	表装(金欄)	有	4号	祥月	記念品	4号	有
500万円以上	別修	表装(金欄)	有	4号	祥月	記念品	4号	有
300万円以上	月1回総修	表装(金欄)	有	3号	祥月	記念品	3号	有
200万円以上	月1回総修	表装(金欄)	有	3号	祥月	記念品	3号	有
100万円以上	月1回総修	表装(綴子)	有	3号	祥月	記念品	3号	有
50万円以上	月1回総修	表装(綴子)	有	2号	祥月	記念品	2号	有
30万円以上	月1回総修	表装(綴子)	有	2号	年忌	記念品	2号	有
25万円以上	月1回総修	表装(綴子)	有	2号	年忌	記念品	2号	有
15万円以上	月1回総修	折紙	—	2号	—	記念品	2号	—
10万円以上	月1回総修	—	—	1号	—	記念品	1号	—
7万円以上	月1回総修	—	—	1号	—	記念品	1号	—
5万円以上	月1回総修	—	—	1号	—	記念品	1号	—
3万円以上	月1回総修	—	—	念珠袋	—	記念品	香	—
1万円以上						記念品	香	—
1万円以下						記念品	香	—

- (備考)
1. 所属寺院を通して上納された住職・衆徒・門信徒、及び別院門信徒に対して永代経扱い又は、物品扱いをする。
2. 開闢法要は大谷本廟で修行される。